大林組

株式会社大林組
2020年３月期 第３四半期決算説明会（電話会議）における主な質疑応答

日　時　　2020年２月12日（水）13：30～14：10

Q　建築、土木の完成工事総利益率の改善理由は。今の好採算工事の利益寄与はいつまで続くか。
A　建築、土木とも、手持ちの高採算工事の進捗、設計変更や原価見直し等を含む複合的な要因によるものである。今年度に利益貢献している工事は近く竣工を迎えるものが多い。来年度以降の利益水準は今年度の受注工事次第であるが、現在のところ受注時の採算性は余り変わっていない。

Q　受注高の進捗について、土木では第４四半期に公共工事の入札等が集中し案件が豊富なため、通期予想は達成可能と各社共に言っているが、各社がかち合うと通期予想の受注高に届かないリスクがあるのでは。
A　当社は第４四半期に海外で受注確度の高い案件もあり、国内・海外合わせた単体土木の通期予想の受注高は達成可能と考えている。

Q　新型肺炎の感染拡大等により先行きが不透明な中、受注環境に変化の兆候はあるか。
A　工事計画情報量は豊富にあり、受注環境は現在のところ特段変化なく引き続き堅調である。新型肺炎等の影響で経済動向が変化し、中長期的に影響を受ける可能性はあり注視している。

Q　子会社の業績の状況は。
A　国内・海外子会社共に概ね業績は順調で特段懸念はない。

Q　単体建築の売上高水準は今まで１兆円程度であったが、今期は１兆1,000億円に近い水準になってきている。来期も同水準のボリュームと見て良いのか、中期的な見通しについて。
A　正確な予測は現時点では難しいが、来期以降も大きな変動はないと見ている。

Q　第４四半期、2020年度にも大型案件の獲得見込みはあるか。
A　今後も受注が期待される案件は豊富にある。

Q　受注競争、受注時採算の動向は。
A　地域のランドマークになるような大型案件は従前と変わらず競争が激しいが、受注時採算に現在のところは全体として特段変化はない。

Q　土木の完成工事総利益率が、数年前より改善してきている理由は。
A　その時々の手持ち工事の損益によるもので、過去から大きな状況の変化はない。今第３四半期はいくつかの工事で損益を見直したことにより高い水準となっている。

Q　海外の建築・土木の業績が好調な背景と2020年度以降の持続性は。
A　海外建築はアジアの建築子会社の手持ち工事で採算の良い案件があった。海外土木もアジアの単体土木工事で損益が改善した工事が複数あった。2020 年度以降については不確定要素もあり現時点では見通せないが、事業環境に特段大きな変化はない。

以　上